

6	歯科検診
7	利用者健診・職員健診
8	入所余暇
9	
10	長寿の祝い・避難訓練（日中）
11	秋行事・利用者秋季健診・インフルエンザ予防接種・園内研修
12	冬行事（クリスマス会）・入所余暇（クリスマス会）
1	夜勤者健康診断・冬行事（お正月遊び）・入所余暇（お正月）・園内研修
2	ゆうあい倶楽部贈呈式・冬行事（節分）
3	夜間避難訓練

定期実施項目：職員会議、支援会議、部門別会議・虐待防止委員会（コンプライアンス委員会は職員会議内で実施）、給食検討委員会、広報紙発行

### （ウ）健康管理

2 回の定期診断を実施した。嘱託医との連携を密に行い必要に応じて診断や治療のため受診し、利用者の健康衛生、健康管理に努めた。

入所利用者においては、高齢化という面から入退院が多くなっているため急変時の対応や病院との連携が求められた。看護師のみによる対応ではなく、主任支援員、リーダー支援員が同様の対応ができるようにした。口腔ケアの充実と疾患の早期発見を目的として、月に3回歯科医師による往診を行っているが、新型コロナウイルス感染拡大状況により、実施できない時期もあった。

今年度は、入所利用者と職員について年2回の新型コロナワクチンの接種を嘱託医と連携し実施した。9月に発生した集団感染の際に、防護服の脱着を含めた標準予防策の徹底や防護服、消毒液等の感染対策備品の確保が必須であることを再認識するとともに、日常の感染対策から再度徹底を図った。

引き続き、日中のこまめな検温、利用者の体調観察をきめ細かく行い、発熱ある場合は居室を隔離するなどの対応を行った。また、生活介護を併用利用されている方や別の日中活動先を利用されている方もいるため、他事業所とも情報共有を図り、利用について都度検討をした。やまびこ園は「入所施設」であり、30名の利用者の生命と健康を守るという責務を果たせるよう「感染症対策マニュアル」に基づき、徹底した対応を今後も行っていく必要がある。

項目	業務の具体的内容等
医療保険	保険証・医療費受給者資格者証の保管等
健康管理	春季健診（身長・体重・血圧測定、検尿、血液検査、心電図、胸部レントゲン、聴診、問診） 秋季健診（身長・体重・血圧測定、検尿、聴診、問診） 歯科検診（1回/年）・往診による歯科受診（重度の方の希望者を対象） インフルエンザ予防接種、入所者・通所者→入所時健康診断書提出/健康調査票提出 体重・血圧（毎月） ブラッシング指導（1回/年） 新型コロナワクチン接種（3回/年）
定期与薬	処方内容の確認、投与後の全身状態などの報告
健康観察	カルテ作成と担当医師との連携。家族等からの情報収集及び分析並びに記録の保持。その他状況に応じた対応に心がけ、必要事項は看護記録として保存
薬品・衛生	医務室の管理、薬品、衛生材料等の発注及び必要物品の確保
材料購入・管理	緊急・応急の処置に対応する
受診	症状に応じ、受診科選択 定期投薬している利用者 → 定期受診（嘱託医）

## (エ) 保護者との連携

10月に保護者会懇談会を2日間に分けて実施した。参加希望者を募り、17名の参加があった。施設見学を企画していたが、9月に新型コロナウイルスの集団感染があったことから画像を利用して園内の様子を紹介した。質疑応答や懇談において、様々な思いやニーズを知ることができた。

9月の新型コロナウイルスの集団感染があった際には、法人内の他事業所の職員の応援のもと状況の伝達に努め、相談員との担当者会議や面談、日誌や送迎での日常において、気づきや要望を聞き取ることを重視した。

## (オ) 安全・衛生管理

## ①避難訓練

危機管理の意識を浸透させ、年間を通じた防災意識を高めるため、避難訓練を2回(日中10月、夜間3月)に実施した。今年度は重度化、高齢化が進む中で、最適な避難方法を模索することに主眼を置き、車椅子を使用する方が増えている中で、「命を最優先」にした避難方法の確立を目指した。夜間避難訓練では、職員が少ない中での避難方法を確認した。ハード面で改善が必要なことに関しては、今後敦賀市と協議を進めていく。

## ②施設内環境整備

施設の老朽化に伴い、来年度以降園の大規模改修が予定されているため、安全に安心して、快適に過ごすことができるように、利用者の重度化、高齢化に対応した改修となるように敦賀市や設計士と協議を重ねた。

## (カ) 地域住民やボランティアとの交流

地域住民との交流に関しては、新型コロナウイルスの感染拡大状況に伴い、今年度は実施しなかったが、敦賀まつりの時期に合わせ気比太鼓の演奏をしていただいた。

毎月の長谷地区の高齢者サロン及びボランティアとの連携においても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、連携を控えたが、清掃や除草に関するボランティアはお願いした。

## (キ) 実習生の受け入れ等

市内中学生の社会体験学習については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。教員免許課程において必須となっている介護等体験の実習生と保育短大の施設実習は、やまびこ園としては受け入れをしなかった。嶺南東特別支援学校高等部の現場実習においては、今年度1名の受け入れを行った。

(ク) 苦情件数 11件

(ケ) 虐待通報 0件

## 2. ワークサポート陽だまり

就労移行支援事業では、施設内外の作業訓練を通して、作業能力の向上を図るだけでなく、JST(職場対人技能トレーニング)やグループワークを実施し、ビジネスマナーの習得やコミュニケーション力を向上するための支援を行った。また、就労支援部会や就職サポート会議にも参加し、関係機関との連携を大切にしながら事業を展開した。さらに、就労に向けた訓練として、ジョブガイダンスや職業準備支援に3名の利用者が参加し、ビジネスマナー講習や模擬面接などの訓練を行なった結果、8月に1名、3月に1名の就職者を輩出することができた。

就労継続支援事業(B型)では、利用者全員が「自分らしく働く」ことを支援の目標とし、作

業支援・生活支援を行った。特に、利用者それぞれの得意・不得意を把握し、個々に合わせた作業を調整し、作業しやすい環境を提供することで利用者全員が生き生き働くことを目指した。工賃については、新規作業の受託はなかったが、現在、委託されている企業からの受注が増えたこともあり、収入および工賃も増加した。

土曜日開所については、年間通して社会参加活動を14日間、工賃アップに向けた作業を6日間実施し、延べ239名の利用があった。

(1) 施設の概要

- (1) 名称 ワークサポート陽だまり
- (2) 種類 就労移行支援事業・就労継続支援事業B型
- (3) 定員 就労移行支援事業 6名、就労継続支援B型 34名

(2) 利用者状況（令和5年3月31日現在）

就労移行支援事業

年齢別

区別	18～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70以上		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
人数	0	2	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5	6

平均年齢 男性平均 30歳0ヶ月  
 女性平均 32歳7ヶ月  
 全体平均 32歳2ヶ月

就労継続支援事業（B型）

年齢別

区別	18～29		30～39		40～49		50～59		60～69		70以上		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
人数	12	2	4	5	7	5	3	3	0	2	0	1	26	18	44

平均年齢 男性平均 35歳8ヶ月（昨年度36歳0ヶ月）  
 女性平均 45歳10ヶ月（昨年度44歳1ヶ月）  
 全体平均 39歳10ヶ月（昨年度39歳10ヶ月）

(3) 施設の運営

令和4年度も新型コロナウイルスの影響で、8月に1日間、11月に2日間休所することとなった。また、健康観察なども引き続き実施した。

日々の作業状況は、繁忙期と閑散期があるものの施設内外の作業は、ほとんど途切れることなく確保することができている。

受託作業は、昆布関係の会社や、木材加工の会社など、以前から委託されている企業からの受注が増え、多い企業では1.5倍に増加した。

施設外作業は、敦賀市から委託されている駅舎清掃や農福連携事業、福井県からの委託である二州健康福祉センターのトイレ清掃、法務局の除草作業などを行った。農福連携事業は、天候不良などもあり、令和4年度は1回のみの実施となった。

また、自主製品については、昨年同様、新型コロナウイルスの影響で販売会やイベントが中止

になったものもあったが、新たに市内の就労支援事業所と協力をしてオルパークでの販売会を開催したり、全国ナイスハートバザールに参加したりすることで、さをり織りの普及啓発を行うことができた。

さらに、特別支援学校の学生や、在宅で就労経験のない方への就労アセスメントも 5 件実施し、そのうち、1 名が就労移行支援利用に至った。

年間の工賃については、受託作業の増加により、令和 3 年度よりも月額平均 1,300 円程度多く支給することができた。

また、法人全体での虐待防止研修を 1 回、事業所内での研修を 1 回開催し、職員の虐待防止に対する意識を向上した。

#### (ア) 支援内容

##### ①生活支援

利用者個人個人が思い描く生活を実現するため、利用者の話をよく聞き、ご家族の方々とも連携しながら支援を行った。

##### ②作業支援

「働く喜び」「働く楽しみ」を全員が感じることができるよう、それぞれの特性に合わせた作業環境の設定や、作業内容の調整を行った。

##### ③実習・就労支援

企業、ハローワーク、就業・生活支援センター、相談支援事業所、他の福祉サービス事業所との連携により体験実習や、就労に向けた実習を取り入れた。

#### (イ) 健康管理

福井厚生連による総合健診を実施し、健康管理に努めた。また、毎日の健康観察や検温、手指消毒などを徹底した。

#### (ウ) 保護者との連携

年 2 回、広報紙を発行し活動の様子を提供したり、希望者に個別面談を行ったりして保護者への理解を得た。また、必要に応じて電話連絡や自宅訪問、作業日誌で連絡を取り合うことで、利用者の状況を共有した。

#### (エ) 安全衛生管理

①10 月 20 日に消防署の協力の下、火災を想定した避難訓練を実施した。

②作業場は常に整理整頓し、作業設備等の安全確認を励行し事故防止に努めた。

③利用者の使用する設備、食器等については常に衛生管理に努め、館内消毒や、定期的な換気を行うなど感染防止対策を徹底した。

#### (オ) 主な年間行事

月	行 事
4	お花見
5	虐待防止研修（法人全体）
6	農福連携事業（東浦みかん） 健康診断（職員・利用者） 嶺南東特別支援学校実習受け入れ 就労アセスメント実施

9	福祉の手作りマルシェ (オルパークでの販売会)
10	けひさんアートマルシェ (販売会) 避難訓練実施 (火災想定) 嶺南東特別支援学校実習受け入れ 就労アセスメント実施 職業準備訓練(就職サポート会議主催)
11	インフルエンザ予防接種 嶺南東特別支援学校実習受け入れ 就労アセスメント実施 ナイスハートバザール (販売会) 地域共生サミット参加
12	ジョブガイダンス (敦賀市就労支援部会主催) 神楽商店街のしめ縄を設置 自治会忘年会&大掃除
1	成人を祝う会 (対象者1名) 市役所販売会
2	就労アセスメント実施
3	所内研修 (小さな出来事について考える)

毎月実施：工賃支給、職員会議(2回に分けて全員が参加)、就労移行支援部会  
就労継続支援(B型)部会

毎月参加：敦賀市就労支援部会、就職サポート会議

(カ) 土曜日開所

日付	内容	参加人数
4月23日	陽だまり春祭り	11名
5月7日	陽だまりシアター	8名
5月21日	プラカップ色塗り	12名
6月11日	作業	10名
6月25日	オリジナルボールペン作り	12名
7月9日	レインボーラインにプチお出かけ	13名
7月23日	作業	8名
8月6日	扇子作り	12名
8月20日	作業	9名
9月3日	陽だまり秋祭り	17名
9月17日	手作りマルシェとオッタ見学	7名
10月8日	カラオケ	12名
10月22日	作業	12名
11月12日	みかん狩り	17名
11月26日	作業	9名
12月10日	オリジナルしめ縄作り	14名
12月17日	作業	9名
1月28日	カラオケ	16名
2月25日	ハンドマッサージ	12名
3月11日	敦賀駅周辺お散歩	19名